



1 地域円卓カフェで協力隊を紹介 2 青木夏祭り等で企画した若手バンド演奏 3 イベントブースでは協力隊をPR 4 発表にも熱がこもります 5 自治公民館に掲示された自治会通信



新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、4月24日に出された市の非常事態宣言の中で、自治会活動の自粛をお願いしました。6月から防犯・防災などの活動を中心に3つの密を回避した活動から段階的に再開するよう再度お願いしています。自治会は、地域活動の中核を成す重要な地縁団体です。「新しい生活様式」を取り入れながら、地域のつながりを大切にする活動が再開されていくことを期待しています。

**ボランティアの経験を生かせる**

出身は岩手県盛岡市。社会学を学んでいた大学2年生の時に東日本大震災に遭遇。「周囲が就職活動を始め、自分の進路を考えていた矢先のことでした。その後1年半半休学し、アルバイトの傍ら震災のボランティアに参加していました。復学後は大学のボランティア団体に所属して、つくば市内に避難している人たちが作る住民グループや、いわき市の復興に携わるNPO法人などと一緒に活動することで、地域に根差して活動することに関心が湧いた」そうです。卒業後は岩手で勤めながら都内の協力隊募集セミナーに通うなど熱心に情報収集。「栃木の景色が好き」という上林さんは、自治会をテーマに募集していた本市の協力隊に応募したのだそうです。

**自治会通信で広がる輪**

協力隊になってよかったことは、地域の人のつながりができ、視野も広がったことだそうです。「初めて行った自治公民館に、私の作った自治会通信が貼ってあり感激しました。他にも『読んだよ!』と声を掛けてくれるようにも。発行するのは大変だけど、読んでもらえる喜びは活

# 開拓の歴史があるから 温かく迎えてくれる

地域おこし協力隊として今年で3年目に突入した上林直人さん。「自治会活動に関する支援」をテーマに活動してきました。自治会活動などを通して感じたことや、自身の活動について話を聞きました。

## 地域おこし協力隊

### 自治会長にインタビュー



チカラを  
発揮する場が  
増えれば——

東那須野区自治会  
しょうぞう  
松本 祥三 会長

動の糧になります」と笑みをこぼす上林さん。「防犯灯を整備したり、ごみステーションの管理をしたり、みんなが安心して暮らすためにも必要な自治会の役割が全然知られていません。高齢者になると、生きがいサロンや見守り活動が生活の助けになります。自治会活動の情報が発信されないことも課題です。地域との関わりを作るきっかけとして、若い世代にも興味を持ってもらえれば」と自治会通信を出す意味を教えてくださいました。「ここは移住者が多く、開拓の歴史もあり移住者を温かく迎えてくれます。これからは協力隊のことを身近に感じ、応援して欲しいです」と話してくれました。

自治会の事業に顔を出し、積極的に手伝う姿も。



活動テーマ  
自治会活動に関する支援

うえはやし なおと  
上林 直人 さん

### 自治会向けに情報発信

自治会活動で地域を活性化することをテーマに活動する上林さんは、自治会の加入促進に向けた発信や自治会の情報発信、地域イベントのコーディネートなどを行っています。「これまでは、いろいろな自治会に行って活動の手助けをしたり、自治会長連絡協議会などの話し合いに参加したりしてきました。自治会に出向いて取材したことを自分なりにまとめて、毎月発行している自治会通信やフェイスブックで発信もしています」と話す上林さん。このほか最近では、自治会の話し合いにオンライン会議の仕組みを導入することに精力的に取り組んでいます。「やっていることは他の隊員よりも地味だけれど、住民の身近なところで活動できています」と今までの活動を振り返りました。